



国際交流員のペ  
ワン ワールド

ONE WORLD...

世界“和”ひとつ



アントン真理雄です。ONE WORLDという名前に基づいて世界各国の文化、習慣、問題などに少しずつ触れながら広報を通して報告しています

## 「外人ってだれ!!??」Part. 2

一昨年の12月にも、広報くみにのONE WORLDで上記と同じタイトルでコラムを書きました。しかし、この内容の重要性をいまだに感じるので以前書いた内容を基に再度皆さんにお届けします…。

ニューヨーク出身の両親を持ち、静岡県で生まれ育った私は生まれながらに多様な要素を含んだ人間です。日本人として日本を理解することもあれば、「外国人」としても理解できます。大分県は、「外国人」の人口密度が全国でも比較的多いそうです。大多数は、立命館アジア太平洋大学（APU）を筆頭に日本で勉強している留学生です。こういった人たちをひっくるめて、「外国人」というレッテルをはることは、日本ではごく普通なことです。しかし、私は多様な文化、習慣、言語、事情、性格、などの個人背景を一つの単語で定義するのは好みませんし、正しくないと思います。

日本ではよく、「外国人＝英語をしゃべる」と考える節があります。英語を母国語としてしゃべらない人にとって、日本外から来ているというだけで英語圏の人間だと思われるのは、個人背景を無視しているかのようで不愉快です。現代の「グローバル社会」において英語が国際言語として受け入れられているのは事実ですが、それを理由に190とある国々や無数の言語を意識しないのは望ましくありません。「外国」という言葉の裏には、なにか自民族中心主義的な観念があります。日本の周りに、外国があって、日本人の周りに、「外人」がいる…こういった考えは日本外の国々がごく単純に定義されるだけではなく、日本で生まれ育つ子どもたちに悪影響をもたらしています。

国際化が急激に進み、現在ほど文化の異なった人々が交流する時代は今までなかったでしょう。したがって、その交流がこういった形で起こるかがとても重要になり

ます。戦争、偏見、差別などをとおして交流を持つよりも、同じ人間としての様々な価値観を理解し、尊重しなければなりません。このようなことを大人が見本として行わない限り、子どもたちは異文化交流というものに対して無神経になります。

「日本は島国だ」「日本には鎖国という歴史がある」などの言い分が通用しなくなる時代が既に訪れています。日本が島国である（島国は他にも多数あります）ことや、「鎖国」という事実があったことは否定できませんが、いつまで地理や歴史を理由に在日外国人に対して精神的苦痛を与えるのでしょうか。皆さんも「外国人」と接する時の自分を再度考えてみてください。同じ人間ではないような目で彼らを見ていませんか？ 彼らの真相も知らずに先入観を抱いていませんか？ こういった偏見は決して日本特有のものではありません。しかしながら、日本内ではあまり文化衝突が起こらないせいか偏見や固定観念についての一般意識が低いようにも感じられます。

異文化交流が深まる今、子どもたちにどう明日を歩んでほしいか見直す必要があります。人間としての共通点や違いを理解し、平和を土台にした人間、または人間としての違いに憎しみを覚え、共通点を見過ごし争いで物事を解決する人間… 選択権は二つだけではありませんが、身近なところから平和への意識を向上してこそ、世界平和は語れます。そして、このコラムを読んだついでに皆さんの頭の辞書から「外人」という言葉を消してください。傷つきます。その人を「外人」という言葉を用いて侮辱し自分から引き離すのではなく、他の要素を含め人間として判断した後に初めて交流が成り立つわけですから。柔軟な頭、柔軟な心が求められます。

### 主な活動内容紹介

\*FAMILIAとはスペイン語で「家族」という意味です。FAMILIAは、料理や話し合いなど多様な方法を通じて世界を考え地域で行動するという「Think Global, Act Local」を目的として行動していきます。

英会話教室(国見)	毎週火曜日(7/18まで)	19:00~20:00(子ども) 20:00~21:00(大人)
スペイン語楽しく勉強会(国見)	スペイン語は残念ながら6月をもって終了しました。	
幼稚園・保育園触れ合い活動	市内各地で交流・活動を行います 問い合わせ 国東市役所企画課企画係	
小・中・高校での交流活動	TEL0978-72-5161 内線231~233	
各種団体との交流活動	国際理解講座 日時 7月7日(金) 18:30~20:30	
One World広報記事連載	場所 iichiko総合文化センター 地下1階映像小ホール	
FAMILIA(ファミリア)*	内容 ドキュメント「奮闘と成功:アフリカンアメリカンの日本経験」鑑賞 ピーストーク「一人ひとりにできること」講師 アントン真理雄氏	

### 今月の一言



「多元的な社会とは絶えず変化し続ける万華鏡のパターンを構成したものである」

テッサ・モーリス＝スズキ

ご意見・ご感想・連絡先 国見総合支所地域総務課 アントン真理雄 ☎0978-82-1111 E-mail: peacestrictly@mac.com

※「広報くみに」に掲載した「ONE WORLD」1～19号を希望される方は、ご連絡ください。